

第4章

# オオルリシジミを通じて 地域の取り組みを知り 自然環境を考える



井出 清隆さん（佐久市野沢）

ミヨタ株式会社北御牧事業所参与。2年半前からミヨタ本社より北御牧へ赴任。北御牧事業所の従業員は330名。強誘導液晶（ビュー・ファインダー）、バックライト、携帯電話のカメラを中心に製造。会社としてオオルリシジミを守る会に入っている。

これまでオオルリシジミの生態や保護活動などの取り組みを見てきました。しかし、一番大切なことは、オオルリシジミを通じて自然環境全体を守っていくことです。どうしたらオオルリシジミをはじめとする豊かな自然環境を守っていくのでしょうか。企業の取り組みや守る会の取り組みを交えながら、3人の方に意見交換をしていただきました。

## 様々なきつかけが チヨウを守ることに

**司会** まずはオオルリシジミを守る会の発足のきつかけについてお聞かせください。  
**武井** オオルリシジミを守る活動を本格的に始めたのは、柴谷さんとの出会いからでした。彼



武井 秀彦さん（上八重原）

オオルリシジミを守る会副会長。早武会長と柴谷さんと3人で守る会を発足させる。薬用センブリ、野菜、米を中心に農業を経営。小さい頃から昆虫や自然に関心を持つ。

**武井** 活動としては、昨年9月に会社の敷地内にクララ1110株と種まきをしました。種の方は発芽率が悪くて驚きました。  
**武井** なかなか芽が出ないですが、2年目に芽が出るものもありますので辛抱のしどころですね。  
**教育長** クララはどこでも繁殖するのですか？  
**武井** どこでも育ちますが、草

刈りの時に知らずに刈り取ってしまうようです。クララを覚えて刈り取らないようにしていただけるとオオルリシジミにとっては助かりますね。  
**教育長** 北御牧小学校でもオオルリシジミを育てています。子ども達は生物の保護や命の大切さを学び、豊かな心を育んでいます。お金では買えない貴重な体験ですね。

柳澤 英夫教育長（田中）

飯田市立松尾小学校、上田教育事務所学校教育課長、上田市保育指導主事、東部町公民館長などを歴任。5月から東御市教育長に就任。



児童が毎日つけていた成長の様子の記録

「来年もまた子どもたちと一緒にオオルリシジミを飼育しながら、楽しく勉強したいと思います。」内田先生は話していました。  
「先生、元気に動き始めたよー」やはり外と同じ状況でないと活動しないことが分かり、一つ勉強になりました。そうして今年35頭のさなぎができました。数は少ないのですが、今年を守る会の支援なしに児童の力だけで交尾に成功し、卵を得られ、さなぎまで無事に育て上げられたことが大きな成果です。また自分で育てられるという大きな自信ができました。  
「後処理をしたり毎日めんどうを見ていました。するとリルの体が赤茶色になりました。私は「病気かな？」と思っていた日に内田先生に見てもらったら、「これはさなぎだね！早く暗くしなぐちゃ。めいちゃん、よくさなぎにしました。えらいよ。」と言われました。その時、私はとてもうれしかったです。しばらくするとリルも赤茶色になりました。」  
次の日先生に見てもらったら「2匹ともさなぎになったよ。すごいね。」と言ってくれました。とてもドキドキしました。1週間くらいたって理科室へリルとリルを見てみました。2匹とも元気に育っていてよかったです。私は早くリルとリルがチヨウになってほしいです。どんなチヨウか見てみたいです。



四年竹組 柳沢 めいちゃん（中八重原）

## 「オオルリシジミのこと」

6月からオオルリシジミを育てました。最初、幼虫を見てびっくりしました。じつは、私は幼虫が大のびがてでもうにげだしたい気もちの人なのです。でも、育てるうちに、だんだんとオオルリシジミの幼虫が可愛くなくなりました。名前はリルとリルです。リルとリルは花を食べたり、ふんの後処理をしたり毎日めんどうを見ていました。するとリルの体が赤茶色になりました。私は「病気かな？」と思っていた日に内田先生に見てもらったら、「これはさなぎだね！早く暗くしなぐちゃ。めいちゃん、よくさなぎにしました。えらいよ。」と言われました。その時、私はとてもうれしかったです。しばらくするとリルも赤茶色になりました。」

## 子ども達の取り組みに親はどう感じたのか聞いてみました。

小山

淑子さん（上八重原）  
哲史くん



クラブへは途中から参加したことを哲史から聞きました。私が勤務する会社では保護活動に取り組んでいますが、映像でしか知りませんでした。また、どう成長していくのかも知らなかったもので、あまり身近に感じられなかったですね。そのオオルリシジミを哲史が育てているのでビックリでした。最近ではホテルなど昔いた身近な昆虫が少なくなりましたね。オオルリシジミと同様に少なくなった昆虫や自然を大切にしたいと願います。何よりも自分から率先してやりはじめたことは大事なことですし、とてもいい経験をしたと思います。

小林

正幸さん（芸術むら）  
芽依ちゃん



「今年からオオルリシジミを育てるんだよ」と娘のめいに言われたときは驚きました。貴重なチヨウであることは知っていたので、正直できるのかなと心配しました。でも、オオルリシジミを家に持ってきて私達にも見せてくれましたし、とても楽しんで育てていました。こういうことって机の上の勉強ではできない貴重な体験ですよ。とてもいい思い出になったようですよ。自信にもつながったと思います。郷土に対する愛着も持つことができるでしょう。今後もこうした学校での体験を広げて欲しいですね。